

神道夢想流 日本杖道会会報

第37号

発行日 平成25年3月
発行人 日本杖道会
編集人 矢沢隆行
印刷所 萩原印刷(株)

いま 桜木は

春爛漫を待ち

寒風に立つ

大地の栄養を蓄積

している

会員よ

藏脩館に集へ

新春所感

神道夢想流杖道振興会

会長 神之田 常盛

平成二十五年の新春を迎え、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

文明之極至無神（ブンメイノキワミムシニイタル）

開化之極至無戦（カイカノキワミムセンニイタル）

前記は、備前範士（明治初期）津田 出^{いづ}先生の卓見ではありますが、その文意は、極めて現代社会にとつて意義深いものがあります。

近年、機械文明が発達し、自動車を造り飛行機を操縦し、文明の極みに達し得たと致しましても、それは本当の目的ではありません。と申しますことは、温かい「心」が欠如しているからであります。

人間の最高至上の目的は、「至無戦」戦争のない平和な、思いやりのある世の中をつくり育てることであろうかと確信するからであります。

それには、精神的な心の昇華を得て、戦争などの愚行を行えない思惟、思索に到達し、津田先生の「至無戦」の予言が実行出来る世の中にしてこそ、私達が子孫に誇りをもつてのこす大きな遺産ではないかと信じます。

それは一朝一夕にして出来るものではありませんし、勿論、時間がかかります。願わくばその過程、すなわち進行する道筋として、杖道先師の訓えの中にある。

五常

仁・・・おもいやり

義・・・人の踏むべき正しい道

礼・・・人の行うべき秩序

智・・・正しいちえ

信・・・まことの正直

等の五常を守り、深い志を以って杖道の修行に励み、一人でも多くの同志を糾合して、その到達の日をのぞんで止まないものであります。

春季武道合宿研修会

鹿島神武殿



大里耕平氏

山口 満氏

阿部 修氏

芳賀 豊氏

砂川邦雄氏

鹿島則良宮司

神之田常盛会長

西村輝夫氏

渡辺武彦氏

善明永吉氏

ラッセ、カルペイユ氏

レナ、カルペイユ氏

平成25年2月9日から13日までの5日間に渡り、茨城県鹿嶋市にある神武殿にて日本杖道会主催による春季武道合宿研修会が催行され、参加者は総勢70名に及ぶものになりました。

初日は正午の会食後に開会式を行い稽古に入っ行って行きました。外国の方も多数参加されるなか、神之田常盛会長を始め各指導師範の紹介を行いました。北は北海道から南は九州鹿児島まで、海外ではスウェーデン、米国、豪州と今回の合宿は様々な人が入り乱れての研修会でありました。初日は制定形を中心にした杖道を行いました。初日は午後だけということもあり、あっという間に終了の太鼓が神武殿に鳴り響き稽古を収めました。

第二日は朝食後、神武殿に集合し研修者一同が道場一杯に広がっての基本を行いました。普段、藏脩館杖道会でも基本を行なっています。が、これだけの人数が揃って行う基本動作は圧巻でありました。

午後は一心流鎖鎌術の研修へと移って行きました。神之田師範よりの指名で見本の動作を各外国の代表者であるカルペイユ夫妻、ダン氏、ポールマロニー氏といった方々の演武を行い、海外での附随武道の進捗状況を確認することが出来ました。

見本演武を行った後、表技の前半を中心に打太刀に対して鎌が代わる代わる巻付けや受けを行うかかり稽古をしていきました。

初心者の方もいらっしやいましたが、ある初心者のご夫婦での参加の方などは、一人は巻付けが、もう一人は紋所を打つ動作が上手いといった方もおられて、藏脩館杖道会におきましても、火曜日に附随武道の研修会を開いておりますが、初めての鎖鎌研修におきまして、このような違いを一度に見ることができ合宿ならではの体験でした。

終わり太鼓の響きと共に整列、黙想後2日目終了となりました。

夕食にて各人の紹介、懇親を兼ねまして挨拶を行なっていました。が、通訳として渡辺氏が外国の方の挨拶では立ち会っていました。中でも先日まで藏脩館杖道会にて同じ釜の飯を食べていましたマイケル・ロジャース氏は日本語が問題ないにも関わらず、渡辺氏と絡むところが可笑しくも有り皆様の笑いを誘っていました。マイケル氏は現在、米国に戻りながらも今後は研修会等に参加していくとの報告を伺いました。

外国の代表者からは神之田師範は古くより外国の研修会に参加いただき大変ありがたいと共に、今後も引き続き海外の指導をお願いしたいとの熱望を何度も拝聴す



